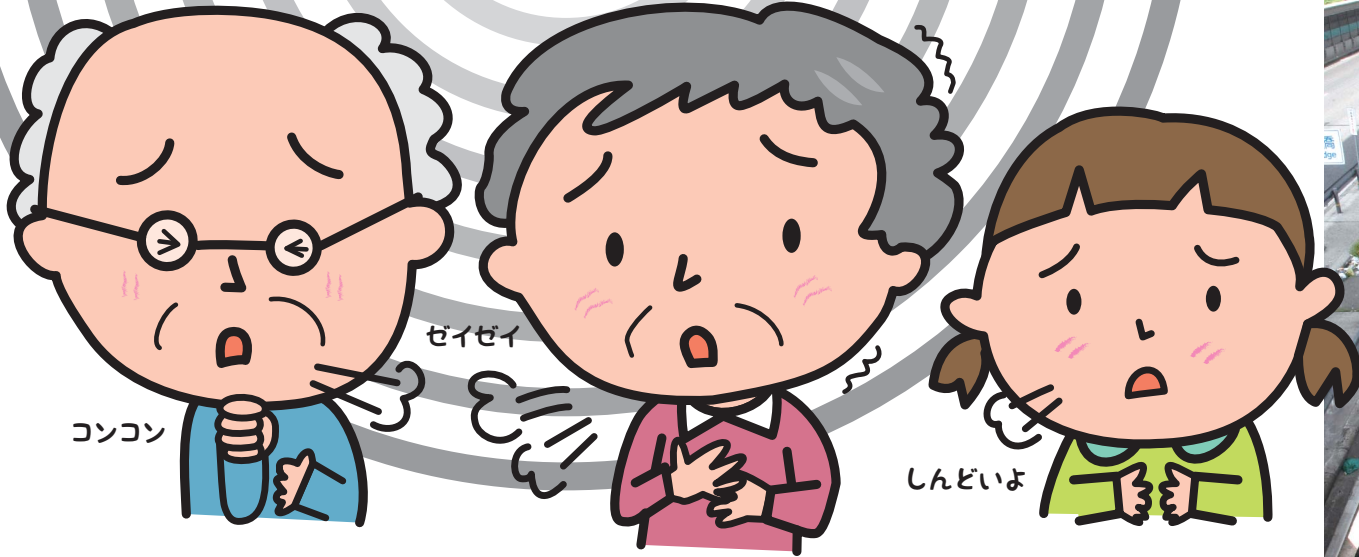


これは一大事!

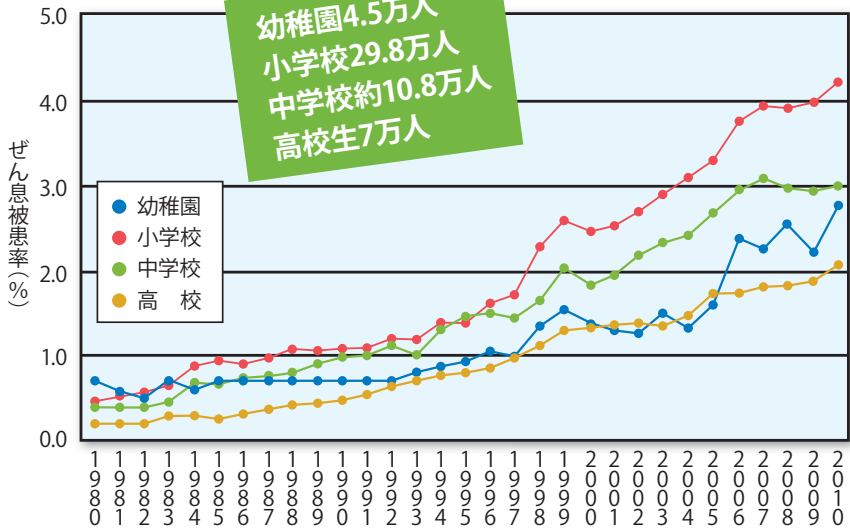
# 「公害補償がなくなる!!」ってホント?

「補償費がなくなったら、生活でけへん。お医者さんも薬も、お金がかかったら生きていかれへん!」—公害健康被害補償法は公害病の患者と家族の命と暮らしを支えるかけがえのない制度です。その“命綱”(いのちづな)がいま、危機にさらされています。



20年間で3~4倍に

出典:文部科学省学校保健統計



## 増える子どもたちのぜん息

もはや他人事ではない

子どもたちのぜん息が増え続けています。学校保健統計(文部科学省)によると20年間で3倍になり、高校生までの子どもで52万人に達しています。(表)

地的大気汚染による健康影響調査(「そらプロジェクト」)でも、「自動車排ガスが小学生のぜん息の発症率を高めている(2011年5月25日、朝日新聞)ことがわかりました。やっぱり「クルマが犯人」だったのです。

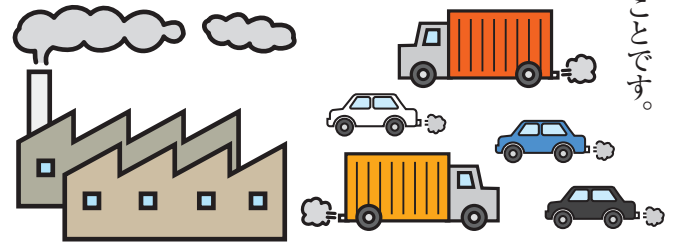
### 国は救済制度化を!

東京都の医療費救済制度(大気汚染に係る健康被害者に対する医療費の助成に関する条例)で助成を受けている人は、すでに7万人になっています。東京都も、大気汚染に責任のある「国が総合的な救済策を講じるべきだ」と言っています。こんな国が制度をつくる番です。

**消費税8%と引き換えに**  
民主・公明、自民は「3党合意」で消費税増税を決め、「社会保障と税の一体改革法」を押し通しました。そこには、2014年の8%増税までに**※自動車重量税の廃止を検討**すると明記しました。自動車重量税は公害補償の財源の一部ですが、これがなくなれば、補償制度の屋台骨がぐらつきます。



日本経済新聞:2012年8月28日(火)



※自動車重量税:車検などの際に自動車の重量等に応じて課税される国税。7032億円

**工場の煙で発病、クルマの排ガスで治らない**  
公害病認定患者は全国で4万人。その多くは工場がまき散らしたばい煙で呼吸器の病気になり、ク

ルマの排気ガスで症状が改善しないまま、いまも苦しんでいます。公害被害者を救済する制度を増税と引き換えに脅かすなんて、とんでもないことです。

患者会と一緒に“命綱”を守ろう!

一緒に行動しましょう!

あなたの参加をお待ちしています



**Q&A**  
公害補償はぜんぶ税金でまかなわれているのですか?  
違います。法律で大気汚染の原因者が負担することになっており、80%を工場(ばい煙発生施設等を設置する事業者:全国で8400)が、20%をクルマの負担分として、自動車重量税から出しています。平成23年度で、工場から387億円、クルマから96億円となっています。

詳しくは地域の患者会へご連絡ください。

あおぞら通信  
2012年11月

きれいな空気と青い空を子どもたちに!